

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会 第7回会議

日時：平成30年2月14日（水）19：00～
場所：函館市医師会病院 5階講堂

【次第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項

- (1) 平成29年度中小規模研修会（介護関係者向け，医療関係者向け）
について
- (2) 第3回函館市医療・介護連携多職種研修会報告について

○協議事項

- (1) 平成30年度 多職種連携研修計画について
- (2) 研修情報の一元化と提供について

3 その他

- (1) 次回の部会日程について

4 閉 会

【配付資料】

- 1 報告事項
- 2 協議事項
- 3 H29.11.25 第3回 函館市医療・介護連携多職種研修会 アンケート集計結果 分析
- 4 多職種連携研修に関する基本方針(案)
- 5 平成30年度 多職種連携研修計画（案）

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会
第7回会議 出席者名簿

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分野	所属団体	氏名	勤務先等
	公益社団法人 函館市医師会	○佐藤 静	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	岩井 祐司 ※欠席	戸井歯科診療所
	一般社団法人 函館薬剤師会	水越 英通 ※欠席	(株)はこだて調剤薬局(昭和店)
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	中村 真奈美 ※欠席	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院
	道南在宅ケア研究会	川口 篤也	医療法人道南勤労者医療協会 道南勤医協 函館稜北病院
	函館地域医療連携実務者協議会	船山 俊介	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 医療総合サービスセンター
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	★部会長 酒本 清一 ※欠席	独立行政法人国立病院機構 函館病院 相談支援室
	北海道柔道整復師会函館ブロック	齋藤 久剛	整骨院さいと
	函館鍼灸マッサージ師連携会	益井 基	益井東洋治療院
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	★副部会長 中村 清秋	居宅介護支援事業所 ひなたぼっこ
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子 ※欠席	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	寺田 昌弘	社会医療法人仁生会 西堀病院
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	高畑 智子 ※欠席	訪問看護ステーション オハナ
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 禎史	特別養護老人ホーム シンフォニー

○報告事項

(1) 平成29年度中小規模研修会（介護関係者向け，医療関係者向け）について

ア 介護関係者向け研修会

日時：平成30年2月26日（月）18：30～19：30

場所：函館市医師会病院 5階講堂

テーマ：「医療機関の病床機能の理解，この先の医療政策の展開について」

講師：独立行政法人 国立病院機構 函館病院 相談支援室

医療ソーシャルワーカー 廣瀬 量平様

イ 医療関係者向け研修会

日時：平成30年2月13日（火）18：00～19：00

場所：独立行政法人 国立病院機構 函館病院

テーマ：「介護保険の概要～退院を見据えた展開～」

講師：函館市地域包括支援センターゆのかわ

保健係長 京谷 佳子様

(2) 第3回函館市医療・介護連携多職種研修会報告について

ア 参加人数及び参加状況について

参加総数～233名

グループワーク参加者～192名

懇親会参加者～97名

イ アンケート結果について（資料3）

○協議事項

(1) 平成30年度 多職種連携研修計画について

ア 多職種連携研修に関する基本方針（案）について（資料4）

イ 平成30年度 多職種連携研修計画（案）について（資料5）

(2) 研修情報の一元化と提供について

ア 参集団体の拡大

イ 収集方法の見直し

アンケート集計結果 分析

n=165(回収率78%)

1. 所属機関をお聞かせ下さい

・病院	51	(30.9%)
・診療所	5	(3.0%)
・歯科診療所	4	(2.4%)
・薬局	7	(4.2%)
・地域包括支援センター	27	(16.4%)
・居宅介護支援事業所	25	(15.2%)
・介護保険事業所	21	(12.7%)
・その他	25	(15.2%)

2. 職種をお聞かせ下さい(複数回答可)

・医師	3	・栄養士	4
・歯科医師	4	・柔道整復師	4
・薬剤師	7	・鍼灸師・マッサージ師	9
・保健師	10	・介護支援専門員	40
・看護師	33	・相談員	33
・リハビリスタッフ	5	・事務員	3
・歯科衛生士	5		
・その他	11		

3. 開催日時(土曜日の午後)はいかがですか？

・良い	112	(67.9%)
・どちらともいえない	44	(26.7%)
・良くない	9	(5%)

【ご意見等】

- ・冬場なのでもう少し開催時間が早い方が良い。
- ・午前が良い。
- ・冬期間というのはどうでしょうか？今年初めての大雪でした。
- ・平日夜でも土曜日午前でも良いと思います。
- ・充分時間が確保できる。
- ・平日は無理。休日(日, 祝日)はゆっくりしたい。
- ・駐車場がほしい。
- ・休日に出てくる人は負担になると思います。(土曜休みの人も多いのでは？)
- ・冬は15:00~の方が来やすい。
- ・平日の日中(勤務時間内)。
- ・他の研修会も多くある為。
- ・それ以外はあまり考えられない。
- ・今回のようなまとまった時間をとっての研修というのは土曜日が最適ではないかと思います。
- ・平日の業務として参加したいです。(自分の休みで参加きついです。)
- ・午前の方が参加, 集中しやすい。
- ・土曜AMでも良い。懇親会はうれしい。
- ・他の研修会とたて続いて毎週土曜日が研修会で少し厳しく感じましたが, 今日は午後でちょうどよい時間だったように思います。
- ・冬でない方が良い。

4. 研修会を受講し、ご自身の理解は深まりましたか？

・深まった	154	(93.3%)
・どちらともいえない	10	(6.1%)
・あまり深まらなかった	1	(1%)

【ご意見等】

- ・多職種の仕事や考え方、求めているものを知る機会になった。
- ・他職種の方や同職種の方の意見が聞けたため。
- ・他職種という点で、「在宅にこんな職種が！！」と知ることができた。
- ・他職種への役割、理解が深まりました。
- ・普段なかなか関わりのない職種の役割を具体的に聞いて良かったです。
- ・連携に必要な情報などが知れて良かったです。
- ・他の職種の業務を知ることで自分の専門性を改めて確認しました。
- ・割と多職種が同一テーブルといったパターンが多いので、同職種という試みは良かった。
- ・セラピストとマッサージ、はりきゅう等連携が取れている場合があることが分かった。
- ・他職種の役割を知ることで自分らが何をすればいいか考えられる。
- ・柔道整復師(整骨院)の利用方法を理解できた。
- ・ケアマネとして広い知識、他職種の業務内容を深めることが少しできました。対象者の方々の状況に応じて活用できたらと思っています。
- ・多職種がつながる為の窓口がどこになるのか。
- ・他職種それぞれ具体的な話が聞いて参考となりました。
- ・他施設、他職種のコミュニケーションが良かった。
- ・求めていた内容ではなかったから。
- ・もっと顔の見える関係が作れるように多職種の仕事(出来る事)を知りたいと思いました。
- ・同業者との話し合い(GW)と、他職種の意見を聞き思いを知れた。本当に相互理解が大事だと実感しました。
- ・今迄考えてこなかった患者家族への介入方法が増えた。
- ・他職種の制度が聞けたこと。
- ・他職種への皆さんに質問したいことをグループワークで話し合う事によりさらに同職種の話し合いができました。是非、続けてほしいです。

5. 今回のような研修会を続けてほしいですか？

・続けてほしい	155	(93.9%)
・どちらともいえない	10	(6.1%)
・続けなくてもよい	0	(0%)

【ご意見等】

- ・他事業所の方々と知り合いになれるし、意見交換できて良い。
- ・なかなか医師等含めての研修会はないため今後も続けて頂きたい。
- ・関わることの少ない職種の出来ることを知る機会となる。今後のネットワーク構築に繋げたい。
- ・とても勉強になりました。各職の事を少し知ることができました。
- ・今後、ますます連携が必要となるので、大変重要だと思う。
- ・職種は別々でグループワークした方が良いと感じた。(同一職種だけでなく、一つのテーブルに様々な職種が混ざった方が良い)
- ・他職種と顔の見える形での勉強会は交流も深まるのではと思います。
- ・急性期を扱う医者にも在宅での多職種連携を理解させるべき。
- ・連携をされていて、職種理解が必要だと改めて思いました。
- ・多職種の方と話が出来大変よい時間でした。ありがとうございました。
- ・他職種混合のグループワーク
- ・まだまだ、交流を図り知識を多用に深めるために！

- ・他職種の業務内容、何に困っているかがお互いに理解できていると思う。
- ・地域包括がうたわれる中で、「連携、つながり」に関わる学習会は多いですが、他職種が自分の職種に向けた意思を聞くことで考え方も変わるのでよい研修会だと思います。
- ・年に1回であればこのような研修会があっても良いのでは・・・
- ・GWのテーマもはっきりしていて良かったと思います。又、続けてほしいと思います。
- ・他職種がどういった関わりが出来るのかを理解することで、自分の役割も変わると思います。
- ・前回もそうですが、他職種の皆さんへの理解が出来とても良かったです。
- ・とてもわかりやすくなる会でした。今後ともよろしくお願いいたします。

5. 今後、どのような内容の研修会を希望されますか？

【具体的な内容等】

- ・様々な事例検討会や意見交換、交流会等
- ・多職種を交えた検討会が良い
- ・事例検討
- ・医療・介護の連携として退院に向けて病院とCMとのサポート関係づくり(連携のあり方、カンファレンス、退院サポート等)
- ・多職種連携の部分でもっと勉強したいと思いました。
- ・多職種連携とてもよかったので、継続して頂ければと思います。
- ・連携を図るためにも、他職種の役割や仕事内容を知りたい。
- ・多職種の理解を深める研修と同じで相互に求めることを話し合えるような研修。
- ・今回の形式とグループに多職種をちりばめた形式を交互に開催。
- ・同じような内容でまたお願いしたい。
- ・互いの役割や業務の内容について具体的に理解を深められるような研修。
- ・全ての職種を含めて仮想事例を作ってみる(連携の意識を持つ)
- ・退院支援について、急性期から回復期、在宅通じての事例検討など
- ・実際の事例を用いて→写真付きで
- ・今日のような和やかな研修会
- ・柔道整復師が介入できる事例があれば良い。
- ・同一症例の多職種からの介入報告
- ・訪問看護、鍼灸等各専門職の具体的な事例検討。実際事例の発表。
- ・今回のような多職種を理解するような内容はうれしいです。
- ・今回のような症例があると関わり方がわかりやすい。
- ・薬剤師の地域活動が必要になってきている。多・他職種の方々と連なり実行したいのでそういう会に参加したい。
- ・医療・介護連携を進めた先に函館市の医療・介護をどのようにしたいのか？→函館市としての社会保障費抑制に向けた取り組みやビジョン。
- ・(次年度があれば)平成30年度の同時改定に絡めたテーマで何か。
- ・別のグループの発表を聞いて改めて専門性や視点の違いを感じた。
- ・年1回の研修会ですが、出席するたびに他職種の知識が増えていくのがわかります。回数を2回にして懇親会はなくてもいいのではないかなと思います。
- ・実際の現場の状況をビデオなどで紹介してほしい。
- ・参加する顔ぶれが集中しないようにできるといいなと思います。
- ・地域、病院等高齢者施設の特性について知ってほしい。
- ・虐待。
- ・職種別ではなく、様々な職種の方とグループワークしてみたい。
- ・グループワークは他職種でも行って見たかったです。
- ・事例発表(様々な職種が入ったケース)
- ・来年も同じような内容で行ってほしい。医療・介護の理解のために行ってほしい。
- ・もっと医療・介護・福祉が連携しスムーズに活動し合えるようなもっと突っ込んだ内容のもの。

- ・各職種の方々がどんなこと、どんな患者さんを困難と思っているのか、聞いてみたいです。
- ・ざっくばらんに話せる研修が良い。まとめが無い等
- ・今回のような多職種の研修はとても有意義だと思う。
- ・多職種が混合したテーブル配置。もう少し、具体的に多職種の制度、役割を聞きたかった。
- ・他の職種の方と交流する時間もあればうれしいです。
- ・他職種が集うこのような研修会でもまだまだ互いに知らない事ばかりなので、テーマを変えて複数回実施してほしいです。

6. その他、ご意見

- ・駐車場が少ない。事例の情報が少なく、もう少し具体的な方がグループワークがしやすい。部屋が暑い。
- ・ボリュームがあって時間が早く感じた。
- ・会場の空調、各テーブルの適正人数(テーブルを増やす、もしくは参加を制限する等必要では?)スクリーンに背を向けて椅子を配置されており移動させていただきました。
- ・色々な職種のお話が聞けて良かったです。自分の仕事についても考えました。
- ・研修会の開催、ありがとうございました。
- ・退院時、連絡調整なくいきなり退院したと連絡だったり、医師の指示だと連携室から早急にサービス対応するよう求めがあったり、一方的な連絡は連携ではない。双方向で検討や方針を定め対応する仕組みを構築する必要あり。
- ・他職の意見、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・分からなかった職種の役割も知ることができました。相互理解につながる場と感じこれからも意識していこうと思える研修でした。
- ・職種バラバラがいい。
- ・今回のような同職種ごとのグループワークは職種ごとの特性を自他ともに認識しやすい方法だと思います。研究の目的を達成するためには、十分効果的なやり方だと思います。
- Q. 市の保健福祉部の方は来ないのですか?(連携という面では現場の声を知る良い機会とありますが…)
- ・多職種のできることに、利用の仕方などがわかってよかった。
- ・職種→「社会福祉士」「精神保健福祉士」枠を作って下さい。教育機関(看護学校、福祉系専門学校、歯科衛生士学校等)も含めた研修も良いかと思います。
- ・今回のグループワーク、とても良かったです。大変、勉強になりました。今後につなげていきたいです。
- ・長時間でしたが、あきない内容で楽しく参加できました。
- ・大変良かったです。ありがとうございました。
- ・参加を希望する個人、職種がより多く参加できることが今後の希望です。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・6. の内容を示していただきたい。包括ケアの取組みなど函館市は後手で他県・他市の真似が多い→独自の取組みやモデル事業へ積極的に。
- ・介護福祉士、社会福祉士と精神保健福祉士の枠がないので作って頂ければ。集計とかに支障がないのであれば良いのですが、職種が医療側から見た区分けで気になりました。
- ・携帯電話やSNSを利用した公式の他職種連携サイト(例えばお互いに自由に質問できたり…)があると面白いと思うし、手軽に利用できる。→直接顔を合わすことが少ないし、聞きにくい事も聞けるかも。セキュリティの問題あるかな。文章によってはモラルの問題もできるかも。
- ・会場の駐車場が足りず、止められなかった。駐車場の充実した会場にしてほしい。
- ・同職種同士のテーブルだったので、楽しくグループワーク出来ましたが、ちがう職種の人たちと話す機会もお願いします。
- ・市から配布されている健康手帳を有効活用する必要がある。
- ・医療・介護・福祉に関わる様々な資格の者たちが同じ目線で肩を並べていけるような函館市になってもらいたい。もっと風通しが良い関係を構築していけたらと思う。参加人数をこれだけ大多数にしていけるなら、ちゃんと駐車場は確保してください。大変困りました。

・②のグループワークのあり方を理解していなかったため、もったいない事をしたと思いました。この回に出る人々は連携の必要性を感じていると思うのですが、あまり興味を持たない人たちとの連携を取る為にどのようにしていくかが課題ですね。

・グループは他職種がいいと思います。

・とても勉強になりました。

・今迄、情報の取り方がわからなかった職種の事がよく理解できた。

・同職種においても、職場が異なることでいろいろな話をする事ができ、自身の勉強につながりました。

・参加人数が多いので、駐車場が広い会場にしてほしい。

・本日は様々なお話が聞けて大変よかったです。ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。

【 多職種連携研修に関する基本方針 】（案）

《策定の基本認識》

医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れている地域で安心して自分らしく生活していくためには、その高齢者を支える医療・介護関係者の役割は非常に重要であり、適切な支援を行うため関係者には常にそれぞれの専門職としての資質の向上が求められているほか、今日では、自らの職責を果たすだけでなく、多様な専門職との緊密な連携を図ることが重要となっている。

この多職種間の連携を推進するためには、関係者がお互いに実際に顔と顔を合わせて、顔の見える関係性を深め、自らと異なる職種の専門性や役割を理解し、尊重し合い、知識や技術を活かし合うという意識を醸成することが必要であり、また、他職種への理解を進めることは、同時に自職種の専門性や役割の更なる理解にもつながる機会となる。

また、入退院支援、日常の療養支援、急変時の対応、看取りなどの高齢者への支援が必要な様々な局面で、関係者が切れ目なくスムーズに連携するための、地域に共通の仕組みやルールを提示し、それらに関係者の中で共通のものとして理解するための取り組みが必要である。

さらに、人材育成の一環として、医療・介護関係の職種を志す学生などに対し、多職種連携の重要性を理解してもらうため早期に適切なアプローチを行うことや、在宅医療を進めるための医療・介護関係者のチーム編成に必要な事柄を多職種間で検討することが必要だと考える。

《研修の目的（テーマ）と内容》

（１）相互理解の促進 ～ 顔の見える関係性の深化とお互いの専門性や役割の理解

- ・医療関係者 ⇄ 介護関係者による研修
- ・オープンカンファレンス
- ・意見交換会の実施（平成31年度～）

（２）連携強化 ～ 関係者間の共通の仕組みやルールへの理解の促進と実践の強化

- ・看取り～看取りについての理解促進、事例報告会等
- ・入退院支援～「はこだて入退院支援連携ガイド」、「はこだて医療・介護連携サマリー」の活用促進のための学習会
- ・急変時対応～好取組事例報告会（平成31年度～）

※各団体との共催

※函館市医療・介護連携推進協議会の各部会・分科会との協働

（３）専門性の向上の取り組みへの支援と関わり

～ 各種団体や各機関・事業所、個人で実施している研修への支援と関わり

- ・各種団体等主催による研修会の広報の支援（研修情報の一元化）
- ・先進的な研修を行っている各種団体等の情報収集と研修の共催等の協力の検討
- ・出前講座の実施（在宅医療・在宅介護への理解の促進）

（４）人材育成 ～ 多職種連携を担う人材の育成

※若年層（学生等）～研修会や勉強会への見学等（平成31年度～）

※専門職～在宅医療チーム編成

《研修の形式》

下記の1, 2, 3を組み合わせで計画する

1. 規模

- ・大規模研修会（200名以上）
- ・中規模研修会（100名程度）
- ・小規模研修会（30名程度）

2. 形態

- ・座学講義型
- ・対話体験型（シンポジウム・事例検討・グループワーク等）
- ・OJT, 自己啓発→各団体, 各機関・事業所, 各個人で対応
- ・混合型

3. 対象者

- ・職種別
- ・職域別
- ・キャリアレベル別

《到達目標》

到達目標	①多職種連携における自 職種・他職種の役割が理 解できる	②多職種間のコミュニケ ーションの必要性が理解 でき、ネットワーク等を 形成できる	③多職種連携を実践し、 課題解決ができる	④多職種連携について、 （各専門職の職域におい て）指導的な立場で推進 できる
上級レベル	△	○	○	◎
中級レベル	○	◎	◎	○
初級レベル	◎	○	△	△

※キャリアレベルの目安（経験年数は多職種連携に関わっている概ねの年数とし、各個人・機関の判断とする）

上級レベル～管理者・リーダークラス

中級レベル～経験年数3年以上程度

初級レベル～経験年数3年未満程度

※到達目標を達成するための研修の場については、センターが実施する研修会等だけではなく、各種団体や各機関・事業所ごとの研修会等と協働し目標達成を目指す。

※各キャリアレベルに合わせた研修内容を継続的に実施できるよう年度計画を策定する。

《研修計画の策定と運営》

函館市医療・介護連携推進協議会および多職種連携研修作業部会と、函館市医療・介護連携支援センターとが協働して研修計画を策定し運営する。

ただし、協議会の他の部会・分科会が所掌する領域の内容の研修に関しては、その内容に対応する部会・分科会と調整または協働して運営することとし、また、研修の開催にあたってはその内容に関連する各種団体等の理解と協力を得ながら実施する。

《研修計画策定の基礎とする事柄》

○医療・介護連携推進に関するアンケート調査

（平成27年7月 函館市医療・介護連携推進協議会実施）

○グループワーク②「具体的な研修内容について」

（平成28年2月20日 函館市における医療・介護連携推進に向けた多職種研修会）

○センターの事業に含まれている内容で、連携強化のための仕組みやルールに関すること

《その他》

1. 研修会等の参加状況の把握と参加率の向上について

地域全体としての専門職の質の向上を目指すために、センター主催で実施する研修会等の参加状況を把握し、比較的参加率が低い医療機関や介護事業所に対しては、個別に訪問等を実施するなど、参加の障害となっている理由の把握に努めるとともに、研修会等の趣旨説明を併せて行うなどできるだけ理解を得られるよう努め、参加勧奨を行う。

2. 研修会等終了後のアンケート調査の実施とその活用について

研修内容の検証と評価を行うため、終了後にアンケート調査を実施して参加者の満足度や理解度などを把握するとともに、このアンケート結果を次回の研修内容や研修計画策定の際の参考とし、改善を図る。

【平成30年度 多職種連携研修計画】(案)

目的(テーマ)	内容	形式				定員	時期
		規模(会場)	形態	対象者	レベル		
(1) 相互理解の促進	① 医療関係者向け研修 「介護保険の概要～退院を見据えた展開～」	中規模 (中央病院) (市立函館病院) (医師会病院)	座学講義 講師：京谷 佳子様	医療関係者	初級～中級	100名程度	5月 8月 2月
	② 介護関係者向け研修 「医療機関の病床機能の理解、 この先の医療政策の展開について」	中規模 (テレシアター)	座学講義 講師：廣瀬 量平様	介護関係者 (訪問・通所系) (入所系) (サ付き・有料)	初級～中級	100名程度	5月 8月 2月
	③ オープンカンファレンス 「多職種による症例の振り返りと共有」	中規模	対話体験(事例報告)	医療・介護関係者	中級～上級	100名程度	随時
	④ 意見交換会 ※平成31年度～	未定	未定	未定	未定	未定	未定
(2) 連携強化	⑤ 看取り 「病院看取り・在宅看取り・施設看取りを知る」	大規模	対話体験(シンポジウム・GW) シンポジスト：未定	混合	中級～上級	200名以上	10月
	⑥ 入退院支援(その1) 「はこだて入退院支援連携ガイド」活用促進 ※各団体との共催 ※退院支援分科会との協働	小規模	対話体験(事例検討・GW)	実務者	中級～上級	30名程度	未定
	⑦ 入退院支援(その2) 「はこだて医療・介護連携サマリー」活用促進 ※各団体との共催 ※情報共有ツール作業部会との協働	小規模	対話体験(事例検討・GW)	実務者	中級～上級	30名程度	未定
	⑧ 急変時対応 ※平成31年度～	未定	未定	未定	未定	未定	未定
(3) 専門性の向上	⑨ 「在宅医療と在宅介護への理解の促進」 ※各団体との共催	小規模	座学講義 講師：センター職員	医療・介護関係者	初級～中級	30名程度	随時
(4) 人材育成	※平成31年度～	未定	未定	未定	未定	未定	未定